

モーツァルト室内管弦楽団 第123回定期演奏会

懐かしのクラシックⅡ

—日本の洋楽の原点を辿る—

ヴァイオリン：鷺山かおり
 ソプラノ：津山 和代
 テノール：清水 光彦
 バリトン：藤村 匡人
 ナビゲーター：桂 小米朝
 指揮：門 良一



桂 小米朝



門 良一

浅草オペラ名曲集

原語オリジナル版と
当時の訳詩による浅草版との比較演奏

- カルメンより 闘牛士の歌 (ビゼー／堀内 敬三 訳詩)
- フラ・ディアボロより
岩にもたれたものすごい人は (オーベル／堀内 敬三 訳詩)
- ボッカチオより ペアトリ姉ちゃん (スッペ／小林 愛雄 訳詩)
- ボッカチオより 恋はやさし野辺の花よ (スッペ／小林 愛雄 訳詩)

懐かしの名曲集

- 詩人と農夫 序曲 (スッペ)
- ハイケンスのセレナーデ (ハイケンス)
- 波濤を越えて (ローザス)
- ベルシャの市場にて (ケテルビー)
- チゴイネルワイゼン (サラサーテ)
- ハンガリー舞曲第3番、第4番 (ブラームス)
- サドコより インドの歌 (リムスキー・コルサコフ)
- ソルヴェーグの歌 (グリーグ)
- ウィリアム・テル 序曲 (ロッシーニ)
- 白鳥の湖より
第1幕・第2幕の情景、白鳥の踊り (チャイコフスキー)
- 中央アジアの草原にて (ボロディン)
- ヴォカリーズ (ラフマニノフ)
- 聖母の宝石 間奏曲第1番 (ヴォルフ・フェラーリ)
- ハンガリー狂詩曲第2番 (リスト)
- メリー・ウィドウより ワルツ・デュエット (レハール)

(曲目は変更される場合もございます)



2008 1/6 (日) 3:00pm開演 (2:30pm開場)

いずみホール

JR環状線「大阪城公園」駅から3分、「京橋」駅から7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から5分。
有料駐車場完備

入場料：一般 ¥5,000 (指定席) / 学生 ¥2,500 (当日限定数発売)

*小学生よりご入場いただけます。*前売一般券完売の場合、学生券の販売はありません。

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 協賛◆いずみホール (財団法人 住友生命社会福祉事業団)
 マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL.06-6135-0503 FAX.06-6135-0504 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909
 前売=大阪アーティスト協会 050-5510-9645 電子チケットのみ 0570-02-9990 いずみホール 06-6944-1188



日本の食文化にはカレーライス、トンカツのように、外来種でありながら日本に同化した「洋食」と呼ばれるものがある。音楽においてもわれわれ日本人の血となり肉となった「洋楽」の原点ともいべき数々の名曲がある。なかでも大正期に一世を風靡した「浅草オペラ」においては、日本人の恐るべき吸収力、同化力が感じられる。だが現在、「浅草オペラ」を間接的にしろ知る世代は高齢化し、それ以後に親しまれた懐かしの名曲の数々もコンサートのプログラムとなることは稀となり、今まさに忘れ去られようとしている。この企画にはそれら古きよき時代の懐かしの名曲をいまいちど掘り起こし、若い世代に引き継いでもらいたいという切なる願いが込められている。



鷺山かおり(ヴァイオリン)



津山 和代(ソプラノ)



清水 光彦(テノール)



藤村 匡人(バス)

モーツァルト室内管弦楽団／指揮・門 良一

Mozart-kammerorchester / Ryoichi Kado, Dirigent

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、35年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス('85、'87年)、シブリアン・カツァリス('93、'94年)、ペーター・ダム('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル('86年)、ライナー・キュッヒル('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。